



## ERM Briefing: Chemical Sector Sustainable Development Goal (SDG) Roadmap

日本化学工業協会・SDGs部会  
2018年9月7日

© Copyright 2018 by ERM Worldwide Group Limited and/or its affiliates ("ERM"). All Rights Reserved.  
No part of this work may be reproduced or transmitted in any form or by any means, without prior  
written permission of ERM.

*The business of sustainability*





## イントロダクション & ビジネス ケース

Introduction to the Roadmap

Business Case for Sustainability & SDGs

# Introduction to the Roadmap



- 世界200社以上の企業のCEOが主導する企業団体。本部はスイス・ジュネーブ
- 株主、環境および社会に対し最大の効果を挙げる事に焦点を当てることにより、会員企業の成功と持続可能な成長を実現に貢献する事を狙いとする
- 会員企業は全ビジネスセクターから参加しており、会員企業の総収入は8.5兆ドル以上、総従業員数は19百万人以上
- 1990年に発足したBCSD(Business Council for Sustainable Development)を起源とし、1995年にWISE(World Industry Council for the Environment)と統合



**200**  
Member  
companies



**US\$8.5 trillion**  
in combined  
revenues



**19 million**  
employees



**70**  
Global Network  
partners

# Introduction to the Roadmap

- SDGアジェンダの実現に向け、化学セクターの潜在力を理解・特定し、イノベーションを促進させることを目的とした約1年間のプロジェクト。
- ロードマップは、化学セクターがSDGに最も影響を及ぼす領域を特定し、その影響を加速、最適化するための重要な機会と経路を記している。また、行動のためのビジネスケースを提示している。

The SDGs are a priority for the chemical sector and this Roadmap clearly outlines where we can work collaboratively to realize business opportunity and have tremendous SDG impact.

Jean-Pierre Clamadieu  
CEO Solvay

The chemical sector is uniquely placed to drive positive impact across the full spectrum of the SDG agenda. Coming together as a sector helps us to make sure we are maximizing this potential.

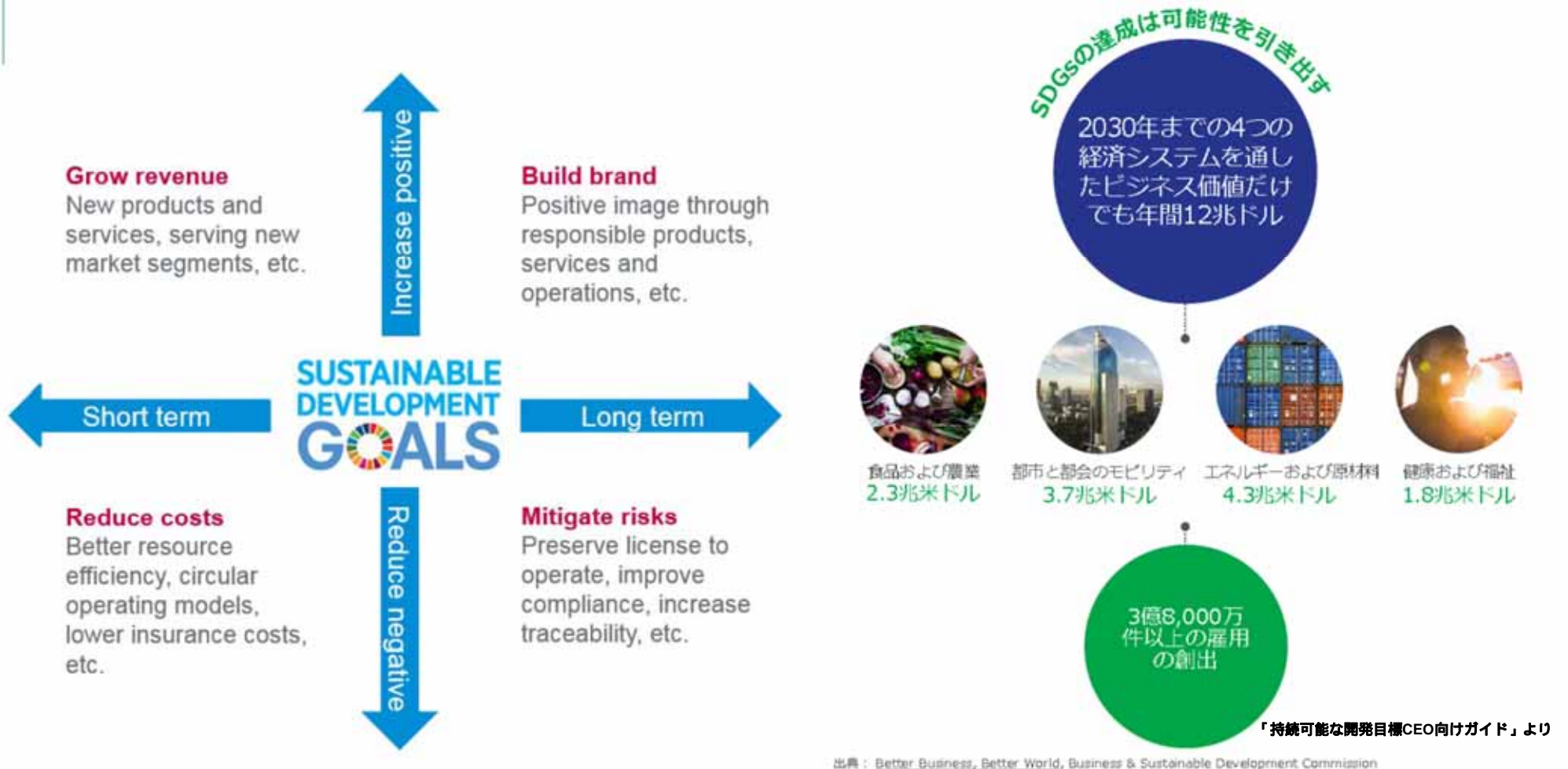
Thierry Vanlancker  
CEO AkzoNobel

## Contributing companies and associations

<https://www.wbcspd.org/Programs/People/Sustainable-Development-Goals/Resources/Chemical-Sector-SDG-Roadmap>

Co-chairs		Project members				
						
						

# Business-Case for Sustainability & SDGs





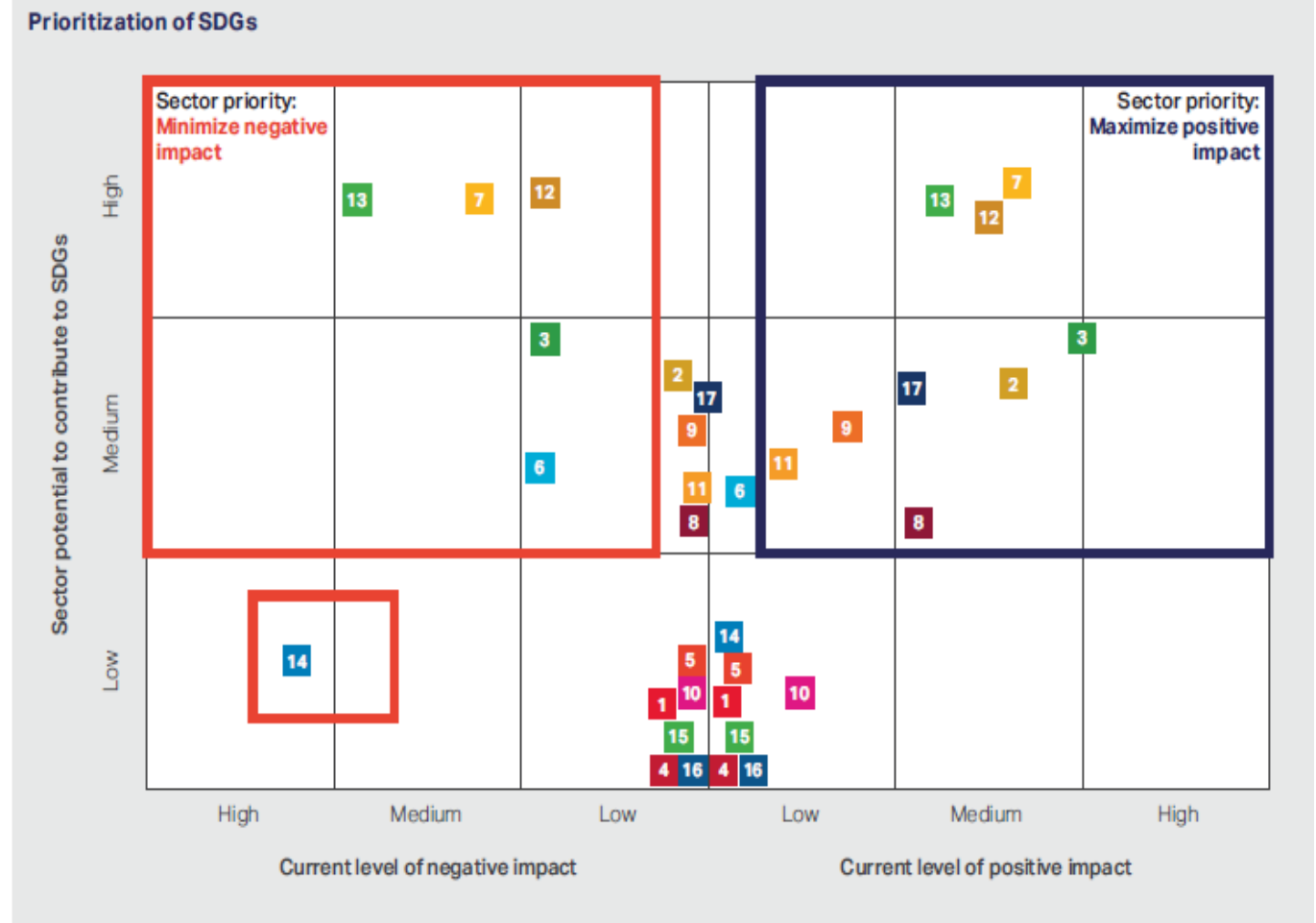


## ロードマップ・メソドロジー

# Step 1. 化学セクターの現在位置の把握

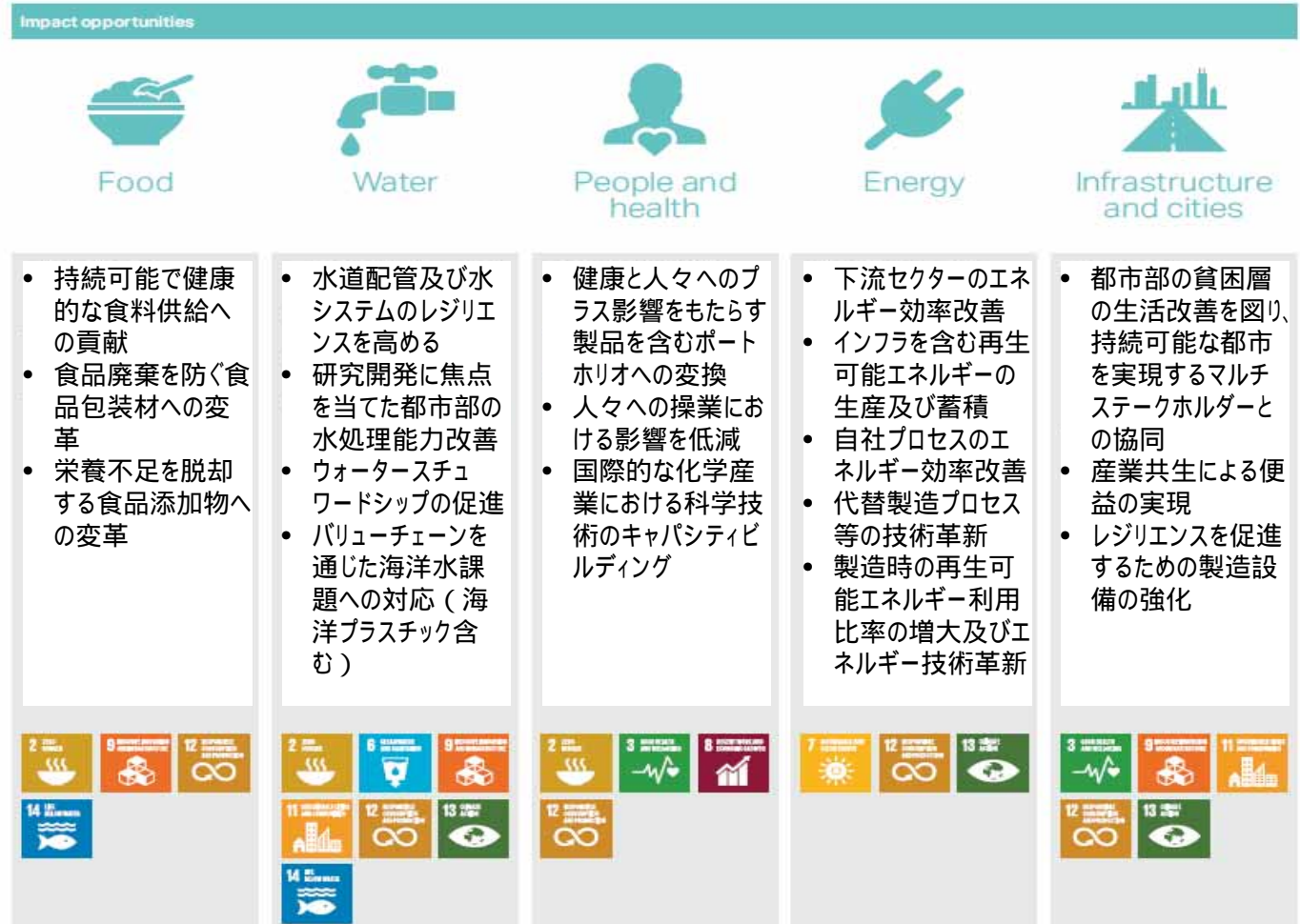
調査、インタビュー、対面ワークショップにより、以下4点を実施

- 化学セクターのバリューチェーンと各SDGの関わりについての調査
- 化学セクターの現状における各目標に対するプラスとマイナスの影響の特定
- 各目標に影響を与えうる、化学セクターの未着手の潜在性、及び事業価値を創造するための機会につながる潜在性の評価
- セクターの優先事項を理解するためのSDGsのマテリアリティ・マトリックスへのマッピング
- 10のSDGsが優先付けられた



## Step 2. セクターが最大の影響力を及ぼす事ができる機会の特定

- 優先付けされた目標に影響を及ぼす**最も重要な機会**を特定するために、構造化プロセスが採用された
- 特定された機会は、**5つの主要なテーマ（食料、水、人々と健康、エネルギー、インフラと都市）**に分類された。これら5つのテーマは、セクターの影響の範囲が幅広いことを強調している。
- これらの機会に関連する分野横断的な要因も特定された—**人権、低炭素経済、循環性、デジタル化**
- これらの機会は、**製品、製造プロセス、パートナーシップ**のいずれかにおけるイノベーションに関連しており、幅広く分類されている
- 全部で18の機会が特定された





## Step 3. 影響力を及ぼす事ができる機会への行動！

- ロードマップは、それぞれの機会を実現させるための”impact pathways”と呼ばれる、**短期的、中期的、長期的なアクションを特定し、着実なSDGの進展を可能にするために化学セクター及び他のセクターを動機付けるものである。**
- これらの”impact pathways”は、**化学セクター企業及び業界団体の専門家**が参加したワーキング・セッションにおいて、それぞれの5つのテーマについて、計画実行や展開における障壁や解決策などを深く掘り下げて検討され、決定された。
- **厳しいスクリーニングプロセスを経たアクションプラン**は、1つまたはそれ以上の、優先付けられたSDGs達成の可能性を高める。また、これらのアクションは化学セクターによって実施されるか、1つの重要なステークホルダーとしての化学セクターと共に実施される。



### Energy impact pathways

Impact opportunity	Category	Key action points	Key partners	Low, medium, high level of input from sector	Short-, medium-, long-term timeframe	Associated SDGs	Associated SDG targets and level of potential impact
11. 下流セクターのエネルギー効率改善	製品イノベーション	川下での省エネルギーを行う上で、最も潜在性の高い技術及び製品の展開を進めるために、顧客（特に輸送、建設、包装材）と協同する。	顧客、同業他社、地方政府	H	M	7	M 7.3
						12	M 12.2
						13	L 13.1
14. 代替製造プロセス等の技術革新	製造プロセスイノベーション	CCU&CCS, 電力セクターによるエネルギー転換踏まえた製造プロセスの電化、低炭素な水素製造や地熱発電など、初期段階の官民共同のパートナーシップで取組む	化学セクター同業他社、スタートアップエネルギーセクター、政府	H	M	7	M 7.3 M 7.a
						13	H 13.1



**SDGの実現に向けたステップ：  
化学会社における3ステップアプローチ  
SDG成熟度曲線**

# 化学会社における3ステップアプローチ

ERMは、サステナビリティへの取り組みに対し、異なる意欲と成熟レベルにある企業が、それぞれのレベルに適した形でSDGの実現に貢献していけるよう、その機会を確認し、実践するための3ステップアプローチを展開。WBCSDが確かな手法として各セクター向けに発表したSDGセクターロードマップの作成をサポートすることで貢献。

	1. SDG診断	2. ビジネスソリューション	3. アクション・プラン
<b>目標</b>	バリューチェーンでSDGsに貢献する可能性のあるビジネスおよび共通の価値観を理解する。	SDGsの実現に貢献することでプラスの影響を高め、マイナスの影響を縮小し、かつ、利益を生み出すことが可能となる革新的なビジネスソリューションを明確にする。	SDGsを企業戦略に組み込み、独立した実行計画と評価計画を共同で策定する。
<b>外部による支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリューチェーン・マッピング</li> <li>169あるSDGsターゲットとの関係性を理解するための診断およびベンチマーキング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲のレベル、重点的に取り組むべきエリア、ターゲットおよびKPIを考慮した企業戦略へのSDGsの統合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの実現に向けた取組みが現場に与える影響の評価</li> <li>評価、報告、ステークホルダー・エンゲージメント・マネジメント</li> <li>リアルタイムにその影響を追跡し、評価するためのインフォメーション・ソリューション</li> </ul>
確かな手段とリソースによる支援			
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスへのマイナスの影響を縮小し、プラスの影響を最大限高める事業活動の機会がマッピングされたマトリックスからSDGsと目標の優先付けを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの実現および長期的な事業成長に貢献するビジネスチャンス（製品、サービス、イニシアチブ、プログラム）の特定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>操業許可の確保</li> <li>レピュテーションの向上</li> <li>新規市場での成長</li> <li>顧客ロイヤルティの確保</li> </ul>

# SDG成熟度曲線(化学セクター)



# ワーキンググループ – アクゾノーベル

アクゾノーベルにとって、持続可能性は、全てのステークホルダーに**長期的な価値**を提供することである。持続可能性は、目的及びブランド、核となる原則及び社員の価値提案を支持する。持続可能性は、成長、革新、生産性の原動力である。



当社は、全社員が**個人目標及び報酬に対する責任**を含む、より持続可能なビジネスに確実に貢献できるようにしている。

当社は、2018年以降、全社員の**個人的な目標**及びインセンティブに**持続可能性**を含めている

2009年以降、**当社の幹部社員の長期的なインセンティブ**が、アクゾノーベルのDJSI（ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス）に関連づけられている。

**事業における説明責任**は、各ビジネスリーダー、また、マネジメントチームの責任者に拠っている。

## United Nations Sustainable Development Goals

Assessment of AkzoNobel contribution

● Main ● Intermediate ● Minor

	Supply chain and operations	Products	Programs
1 No poverty	●		
2 Zero hunger		●	
3 Good health and well-being	●	●	
4 Quality education	●		●
5 Gender equality	●		
6 Clean water and sanitation	●	●	
7 Affordable and clean energy	●	●	
8 Decent work and economic growth	●		●
9 Industry, innovation and infrastructure	●	●	
10 Reduced inequalities	●		
11 Sustainable cities and communities		●	●
12 Responsible consumption and production	●	●	
13 Climate action	●	●	
14 Life below water	●	●	
15 Life on land	●	●	
16 Peace, justice and strong institutions	●		
17 Partnerships for the goals	●		●



# SDG成熟度の向上に向けて

## 未知

- SDGs重要性評価の実施
- 既存オペレーションの位置づけ
- 改善に向けた目標の設定

## 初期段階

- 影響力がより大きくなるSDGsの優先順位づけ
- 定量化できる目標の設定
- SDGsに関する影響についての報告
- 影響力を最大化するための他社との提携

## 認知された段階

- SDGsへの影響を包括的に理解するためのギャップ分析
- 定量化できる目標の設定
- SDGsに関する影響についての報告
- プラスおよびマイナスの影響の開示
- 影響力を最大化するための他社との提携

## 実証的な段階

- 取り組んでいるSDGsの適切性を確認するためのギャップ分析
- ケーススタディーに関する報告から定量化できる影響力に関する報告への移行
- プラスおよびマイナスの影響の開示
- 影響力を最大化するための他社との提携
- 中核事業とSDGsの目的が合致するようライフサイクルにおける資本コストを使用

## 効果的な段階

- 取り組んでいるSDGsの適切性を確認するため、重要性を定期的に再評価
- ターゲットが野心的なものでなくなった際の見直し
- 改革を促進し、業界の期待値を設定するための他社との提携
- 投資決定をする際にはライフサイクルを考慮した資本コストを組み込む

## 先駆的な段階

- 対応が遅れがちな競合他社との間でトップに立つため、先発者としての優位性を活用



**西 利道**

パートナー

イー・アール・エム日本株式会社

[toshimichi.nishi@erm.com](mailto:toshimichi.nishi@erm.com)

045-640-3785

*The business of sustainability*

